

書式

原稿はワードで作成すること。基本的に SLAVISTIKA XXXV の書式にならうので、適宜参照することが望ましい (U-Tokyo 学術リポジトリ SLAVISTIKA35 号 :

https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/search?page=1&size=100&sort=-custom_sort&search_type=2&q=6049×tamp=1622494190.118511)

分量は日本語の場合、脚注を除き 25000 字以内、ただし図版・表等が入る場合は SLAVISTIKA のページにして全体で 20 ページを超えない長さとする。

[ページ設定]

用紙 : B5

余白 : 上 : 23mm 下 : 30mm 左 : 21mm 右 : 21mm

文字数・行数 : 40 字×34 行

[和文本文書式]

和文フォント : MS 明朝 10pt

欧文フォント : Times New Roman 10pt

段落 : 両端揃え

間隔 段落前 : 0 段落後 : 0 行間 : 固定値 間隔 : 17pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

***標題、副題、著者名、見出し、副見出し、引用も、書体や大きさ、配置を変えず、本文と同じフォント、大きさを左詰めにすること。**なお複数行にわたるような引用を挿入する場合 (ブロック引用) は、改行して、引用の前後に **1 行ずつ空ける**。

*原稿には**頁番号**は入れる。

*論文を「はじめに」で始める場合には、番号なしで「はじめに」とし、本文は 1. から見出し番号をつける。**「0.はじめに」のような形は使用しない。**

*セクションに番号をふる場合は 1-1. や 2-1-3. のようにハイフンを入れる。

<注>

脚注とする

番号書式 : 連番で 1, 2, 3, ...

フォント : MS 明朝 9pt

段落 : 両端揃え

間隔 段落前 : 0 段落後 : 0 行間 : 最小値 間隔 : 12pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

* 本文中での注番号の位置は、句読点の前に置く。

[欧文要旨書式]

フォント：Times New Roman 10pt

段落：両端揃え

最初の行：字下げ 幅：3 字

間隔 段落前：0 段落後：0 行間：固定値 間隔：17pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

[欧文本文書式]

フォント：Times New Roman 11pt

段落：両端揃え

最初の行：字下げ 幅：3 字

間隔 段落前：0 段落後：0 行間：固定値 間隔：17pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

<注>

脚注とする

番号書式：連番 1,2,3...

フォント：Times New Roman 9pt

段落：両端揃え

間隔 段落前：0 段落後：0 行間：最小値 間隔：12pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

[和文要旨書式]

フォント：MS 明朝 10pt

段落：両端揃え

間隔 段落前：0 段落後：0 行間：固定値 間隔：17pt

(全範囲を選択し「段落」で指定)

[約物について] (和文書式の場合)

- ・ 「、」「。」方式とする (これまでの「,」「。」方式は採用しない)。
- ・ 引用者の注は原則として [] でくる。他のカッコ類との兼ね合いで都合が悪いときは [] も可。
- ・ 中略は [中略] とする。

[引用注の表記法について]

・併用式とする。つまり、欧米語の文献は欧米方式で、ロシア語文献はロシア方式で、日本語文献は日本方式で表記する。

・基本的に、以下の凡例に従う。その他の細かい点については、スラブ・ユーラシア研究センターHPに掲載されている『スラヴ研究』の「引用注の様式」を参照。

(<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publictn/slavic-studies/slav-chu.pdf>)

・凡例

〈論文集収録の論文〉

Воронский А. К. Искусство как познание жизни // Белая Г. А. (ред.) Из истории советской эстетической мысли 1917–1932. М., 1980. С. 291.

Mikhail Meilakh, “Kharms’s Play *Elizaveta Bam*,” in Neil Cornwell, ed., *Daniil Kharms and the Poetics of the Absurd: Essays and Materials* (London: Macmillan, 1991), pp. 212, 215.

ジュリアン・ピア（海老根龍介訳）「サミュエル・ベケット、あるいは文体の揶揄」『アウリオン叢書 5 文学と笑い』弘学社、2007 年、9 頁。

〈雑誌掲載の論文〉

Струве Н. «Некрополь» В. Ходасевича // Вестник русского христианского движения. 1978. № 127. С. 105.

Ilya Levin, “The Fifth Meaning of the Motor-Car: Malevich and the Oberiuty,” *Soviet Union / Union Sovietique* 5:2 (1978), p. 295.

林徹「トルコ語指示詞の選択における話者の判断のばらつき」『東京大学言語学論集』第 28 号、2009 年、267-269 頁。

[参考文献表]

基本的に必要ない。参考文献表をつける場合は、統一書式は決めていないが、SLAVISTIKA XX 以降の書式を参照すること。

投稿（査読あり）の場合

[投稿執筆者の匿名性の保持]

執筆者の匿名性が保持されるよう、心がけること。自身の過去の業績に言及する場合は、第三者的に指示すること（「拙論を参照」「...については以下で論じた」などは禁止）。査読用論文冒頭には表題のみを示し、執筆者氏名は記さないこと。また投稿用ファイル名に著者名は使わず、論文タイトルの一部などを使用すること。

提出方法

Word ファイルで以下のメールアドレスに送付すること。slav@l.u-tokyo.ac.jp

メール本文に、表題、執筆者氏名、執筆者所属（執筆者紹介欄に掲載する、2026 年 3 月の所

属、所属が複数ある場合は代表的なもの) を書き添えること。

画像・図にキャプションをつける場合

編集段階でズレが生じないように工夫して提出することが望ましい。